響け！平和の鐘

「台所から平和を」

コープぎふでは平和とよりよい生活のために、「台所から平和を」をスローガンに、組合員の皆さんから平和カンパを募り、様々な取り組みを行っています。あなたも、できることからはじめてみませんか？

「平和はしあわせであり、最高です。」
少年少女ヒロシマの旅　６年生　大輝君の感想

第15回 総代会　総代 寺倉和子さんの発言より

1951年日本生活協同組合連合会が設立、その創立総会で採択されたのが平和宣言です。『我々は原子爆弾の悲惨な体験を通じ、戦争に対し強い憎悪の念を抱いている。生活協同組合運動を通じて、世界平和と勤労大衆の生活擁護のために闘うことを誓う』とあります。今、憲法の改正が言われていますが、あのときが曲がり角だったといわれないように私たちがしっかりと考えていきたいです。

平和カンパのメッセージ

2012年度の平和カンパは
1,049,075円

本気で平和を願い、二度と戦争も原爆もお断り！という志を見せたいと思います。平和行進もピースアクションもがんばって参加できる方はしましょう。　岐阜市の組合員さん

人の命、平和が何よりも大切と思います。"今の憲法を守れ、9条を守れ！"と大きく叫びたいです。
美濃市の組合員さん

少年少女ヒロシマの旅

子どもたちだけでヒロシマを訪れ、資料館や碑めぐり、被爆体験を聞くなど目と耳と足を使って平和の大切さを考えあうものです。

「人間はこんなに優しいのに、なぜ戦争をしてしまうのだろうと思った。」
6年生　あおばさん

「碑などを見て回って、原爆はどれだけ人を悲しませたか改めて分った。」
4年生　賢伍君

「校庭で死体を焼いた。校舎の下にもまだ骨が残っているかもしれない。ちょっと怖かった。」
5年生　菜緒さん

「『核』の名のつくものはすべてなくすべきだと思った。」
6年生　真悟君

「原爆で受けた被害はひどいけれど、広い世界に原爆のことを伝えようとしている人、後世に伝えようとしている像と、たくさんのものが、多くの人に原爆の恐ろしさを伝えようとしていたのはすごいと思った。」
6年生　惟月君

沖縄戦跡・基地めぐり

普天間基地がよく見える嘉数高台へ行きました。すぐ近くまで民家が迫っていて『世界で一番危険な飛行場』といわれるのもなるほどと思いました。住民が収容所に入れられている間に、アメリカ軍は基地にするため家を焼き払い鉄柵で囲ってしまったため、その周りにしか住めずこのようになったと聞きました。基地の面積が市の26％も占めるのには驚きました。
参加した組合員 野村育子さん

ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ

被爆地ヒロシマ・ナガサキを訪れ、平和について考えます。原爆平和記念資料館や碑めぐり、「平和記念式典」へも参加しています。

自分には関係のない過去のことと思っていたことが、現在進行形での平和に大切なことだと感じるようになった。
参加した組合員より

今の私たちの平和なくらしの陰にこんな悲惨な歴史があったのだと振り返ることが出来ました。戦争は遠い昔の話ではなく、目の前のおばあさんの、目の前で起こった事なんだと小学生の息子と実感できた事は、何ものにもかえがたい貴重な体験でした。30歳になった息子と、平和祈念の式典で、いろいろなことを語りあえるのは、この体験があったからです。ぜひ親子で参加して平和に関心を持つきっかけにしてほしいものです。
参加した組合員より

ピースウォーク ぎふ折り鶴平和行進

「台所から平和を」を掲げ、一人ひとりが平和を求める心を大切にし、毎年取り組んでいます。

「戦争反対」なんて言えなかった時代もあったんです。今はこうして表現の自由が認められ、平和行進もできます。平和は、声にすることから始まります。この自由がいつまでも続くように、こうして仲間と会えることを楽しみに、今年も歩きたいと思います。
各務原行進　参加者より

父は悲惨な戦争を体験し、再び戦争が起きないようにと願い、平和の枝を拡げるようにと「和枝」と名づけたと言っていました。その私も、子ども、孫を授かりました。未来ある孫たちのために大切な平和の世界を残してやりたいと、私にできることを・・・。「核兵器も原発もいらない」の想いで平和行進に参加しています。
27年間、県内通し行進を続ける
西濃支所組合員
矢橋和枝さん

戦争体験聞き書き

戦争体験をされた方から当時の様子を伺い、そのお話を文字にすることで、戦争を語り継ぐ取り組みです。「戦争体験聞き書き集」は岐阜県立図書館をはじめ、主な市町村立図書館に置いています。
第9回の応募は9月15日（必着まで受付しています。

「原爆と人間」パネル展示と被爆体験を聞く会

語り伝える取り組みを各地域で行っています。6月1日長良店において、岐朋会（岐阜県原爆被爆者の会）の木戸季市さん、佐藤朱美さん、平野諒さんに被爆体験を語っていただきました。

岐朋会
（岐阜県原爆被爆者の会）
木戸　季市さん

戦争体験の話を聞いてくれた人達に「私たちに何できますか？」と質問されます。その際に私は「今日の聞き手は明日の語り手」と答えます。自分が聞いたことをいろんな人達に伝えてほしい。そして、一度では聞き取れないことがたくさんあるので何度も聞きにきてほしい。それが私たちの想いです。

ご自身にとって辛い経験なのにお話いただき、貴重な経験になりました。私たち一人ひとりが原爆の怖さ、戦争の悲惨さについて再認識し、平和について考えることが大切だと思います。
参加した組合員　中島幸子さん

OCR、e-フレンズからは通年で募金を受け付けています

共同購入注文書（OCR用紙）の注文欄に注文番号と数量（口数）をご記入ください。インターネットでご注文の方は、「注文番号でご注文」の画面から、カンパ、募金番号と数量（口数）をご入力ください。後日、商品代金と一緒に登録口座より引き落としさせていただきます。

平和カンパ	注文番号 39837	1口　100円	ご協力いただく口数を記入ください。
	注文番号 39845	1口 1000円	

※店舗をご利用の方は、各店舗に募金箱が設置してありますので、ご協力をお願いします。